

鹿屋の名木

鹿屋市内には、全国一の巨木である蒲生の大楠など、数百年、数千年の長い間、自然の脅威にさらされながらも、先人が守り続けてきた名木・古木がたくさんあります。鹿屋市内にも地域のシンボルとして人々に長年親しまれ、守られてきた名木・古木が多く存在しています。市では特に貴重な樹木を指定文化財（天然記念物）に指定しており、継続的に保存に向けた取り組みを行っています。今号では、鹿屋市の指定文化財となっている貴重な名木を紹介します。

（注）名木の幹周り及び樹高、推定樹齢は文献等により記述が異なる場合があるため、表記の数値はあくまでも参考値としてご理解ください。

諏訪両神社のイヌマキ



諏訪両神社のモミ



諏訪両神社のイチョウ



「いつの時代の鎌だろうか…。」
樹木の命の営みとともに
樹内に巻き込まれていた鎌が数年かけて
樹皮から現れたり再び樹内に隠れたりする

諏訪両神社の古木（イヌマキ・モミ・イチョウ）

輝北町上百引諏訪にある諏訪両神社の境内には、イヌマキ、モミ、イチョウの三本の古木があり、いずれも樹齢400年以上と推定されています。イヌマキは幹周り3・4m、樹高22m。20mを超えるイヌマキは大変珍しいと言われています。

イヌマキの幹には無数の鉄の鎌が打ち込まれています。これは、諏訪両神社の祭神の一人「建御名方命」が武神であることから、戦陣に赴く者が武運長久を願い、神社から守護鎌を譲り受け、無事帰還すると願戻しのために、鎌をこの神木に打ち込んでいたからです。この風習は



「熊野神社のイヌマキ」根回りは9mとされる。樹齢は500年という説もある

熊野神社のイヌマキ

太平洋戦争まで続きました。永禄元年（1558年）とされる神社創建以来、イヌマキは樹内におびただしい数の鎌を巻き込みながら成長してきたのです。モミは幹周り4・75m。中間部まで枝は無く、樹高は32・8mもあり、威厳を放っています。イチョウは幹周り9m、樹高19・6m。昭和20年の台風で幹が折れ、中が空洞になりましたが、脇芽が4本伸び、幹のように成長。度重なる養生作業により、今でも樹勢を保っています。

イヌマキは鹿屋中央公園近くの熊野神社（新生町）の境内にあり、幹回り6・8m、樹高は20m以上。樹齢は300、400年と推定されています。幹は大きな空洞になっており、横に向かった幹は平成9年の養生作業により支柱で支えられ、現在に至っています。県下にあるイヌマキの中でも最大級と言われており、貴重な天然記念物として高く評価されています。